

日本画のスタイルには、私たち一般に接
 しているものに比べると、はるかに広範囲の
 種類がある。高橋信一氏の絵は、私たちの経
 験を豊かにしてくれ、まれな機会を提供し
 ている。

伝統的な墨と水彩を使って描かれた高橋氏
 の絵の、意図する所は言うまでもなく、その
 美的趣味は、輸出用の美術品——例之は、屏

風、扇、掛け軸等、主として室内装飾家によ

うて特別に取り上げられているものと、完全
 に対立している。一見すると、彼の絵は、臆

病者をあされさせる傾向にある。それは、日

本の最も高貴な、最も古い伝統につちかわれ

てあり、時間をおしまでに観賞する者に、希

有の価値ある経験を約束している。

暫く前に、アカデミー、オフ、アィワで行

なわれと講演で、奈良の正倉院（八世紀以来

の皇室の宝物館）の主事にもおとらぬ、有名

な日本の美術鑑定家が、次のような話をした

昔、有名な刀かじが作り出した刀のつばは傑作に、人間と鬼の決闘がある。この小さな浅浮彫りは、彼自身の高い水準を上げるかにしるぐもろびあった。

打ち負かされた鬼の容貌は、救いのない怒りと、望みなき復讐への渴望によって極度にゆがんでおり、われ一人として、そのつばを見る者は、恐ろしい感情を経験せざるにはいられない。

全ての美術鑑定家は——たいてい一人を除いて——この傑作を激賞した。残る一人は、ある種の限界——人間がわれ一人越えてはならない限界があると評した。刀かじはこの批評に同意した。そして、その鬼性の怒りと憎しみの顔の上に、静かに開いた鉄扇（その当時の武士の持つていたアクセサリー）をおりた。

しかし、その金銀をちりばめた象眼の、一枝の桜の花の下に、打ち負かされた鬼の、苦悶にあえぐ開いた口があり、と実在している。

ことが、だれか目にも明らかであった。

この偶話には、伝記的な逸話を越えた、深い意味がある。ここから推論できることは、日本のみならず、人間の生存するあらゆる所び、偉大な芸術は、予期せぬ深淵^{しんえん}から――もしそれがそれを観察する勇氣があるなら、それは恐ろしい深淵から生み出される。

西洋が初めて日本の美術に接触したのば、信じられないほど単純な、心が浮き立つような経験であった。十九世紀後半の芸術家、美術蒐集家^{しゅうしゅうか}たちは、色彩豊かな木版画、浮世絵から、純然たる喜びを見出した。日本人は、こういう礼儀正しい見方に対して、冷静に、浮世絵は、十八世紀の江戸の限られた地域の、浮き流れ去る世界の視点に属するものとしてゐる。西洋人は、性急に、それらを斬しい

天国への道標として歓迎した。絹の着物を着

た、浮世絵の佳人たちは、花見とか、月見と

か、浮き世の末梢的なことをもてあそんでい

た。頽廢^{たいはい}的な空氣の中に浮いて、ヨロワバ

の世紀末的香りと無理なく混り合、ていた。
 ホーデルレルがよく知、ていたように、人
 工的な天国は、均衡を保つために、地獄の現
 実性が必要とした。日本の宗教家も同一意見
 であつた。中世以来、西と東に分れていても
 、偉大な芸術家は同じように、それ／＼の技
 術、スタイルを**選**びながら、恐るべき地獄の
 詳細を描いて来た。西洋では、ゴッッ風
 の大聖堂の石に刻まれた。東洋では、絹や紙の
 上に、上下に動いてバウンスを保つ筆によつ
 て、仏教の地獄は掛け軸の長さ一つばいに、
 細部にわたつて描き出された。
 しかし、この二つの世界には、違いがあつ
 た。ダンテの地獄は、人間が生存してゐる世
 界とは、はつきり境界線を引いてゐる。とこ
 ろが、日本の宗教家は、地獄をこの世のあら
 ゆる所にまき散らした。最低の地位にゐる悪
 魔は——鬼神は——黒い憎しみの後光と之、
 としてゐない。人間よりみぢめな、目に見え
 ない悪魔は、人間の集まる所にうろついた。

足なえてゐる者は、まがつた百姓の背中に
 リ、空腹な者は、便所に溜つてゐる汚物を熱
 望し、あるいは、息子の誕生を喜んでゐる家
 族に混つて、産婆が取り除いたものを、いじ
 めなく、よそぼつてゐる。

掛け軸の絵は、又、別の種類の地獄を描き
 出した。これは、超自然的要素を完全にはぎ
 取つてしまひ、肉体の邪悪と酔狂の單なる目
 録と化した。小人、見られないほど太った女
 巨人、がい骨のような男等が、その絵の世
 界に住んでゐる。杖をふりまわしてゐる盲目
 の老人、箱にしぼりつけられた足のないこじ
 き、るいれぎを病つてゐる者、狂人、等々で
 ある。

高橋氏のイメージは、この地上の地獄と共
 通点が多い。はげたかの爪や、こうもりの羽
 の見かけの展示にもかかわらず、彼の悪魔は
 、主として人間の絆きずなに関する、十分に記録さ
 れた報告に押印をすべく、熟考された目的を
 具体化してゐる。

このような絵を敬意をもつて鑑賞すること
は、見る人をして、いかに慈悲の心が、この
明らかに無慈悲な画像の意味を解く、鍵をに
ぎっているかを、発見するかに役立つ。

(翻 訳 者 ハ ー バ イ ン 、 ハ 重 子)